論文

中国語の忌み言葉と代替語についての一考察
―レトリックの視点から―

陳　姍姍

1．はじめに

忌み言葉とは特定の理由で使用が避けられる語や語句のことで，中国語では「忌讳语，禁忌语」と言う．

中国において，今まで忌み言葉に関する研究はそれほど活発には行われていないのである．しかも行われた研究も言語学的観点から忌み言葉を研究するのではなく，禁忌風俗とか民俗文化に注目したものが多かった．そのうち，代表的な著作として李中生（1991）「中国语言避讳习俗」及び林倫倫（1994）「中国言语禁忌和避讳」が挙げられる．

李中生（1991）は『中国语言避讳习俗』で中国の言語禁忌について，中国の歴史を遡り，中国の文化的背景から説明している．

例えば，台湾の山地の男女は恋愛するとき，傘，扇子を携帯するのを忌み，鏡を贈るのも禁忌する．これは婚姻や恋愛がうまくいけないことを恐れる表現なのである．中国語で「傘」は「散」と同音で，「扇」は「吹了」，「冷了」の意味を含んでおり，鏡は「破裂」を意味する．そのため，「扇子」を「開合」という地域もある．[1]

また林倫倫（1994）は『中国言语禁忌和避讳』では，中国の忌み言葉の由来や，それぞれの分野における言語禁忌，忌避の基本法について論じている．

職業の言語禁忌として漁業，狩猟，牧畜業，商業に分けて論じられ，忌避の基本法として回避法，婉曲法，代替法が挙げられる．

回避法の例として「瘸子」，「聋子」，「瞎子」，「秃子」などがあるが，これらは本人の前で絶対に言わないのである．

婉曲法の例としては，「上厠所」と言わないで「方便一下」，「减轻负担」のような婉曲な言い方をすることが挙げられる．

代替法としては，「棺材」を「寿木」，「茅厠」を「东司，东厠」ということなどが例として挙げられる．

今までの先行研究から見れば，忌み言葉の分類はある標準を設けずにばらばら分散しているような感じを与え，体系になっていない．それに忌み言葉の代替語の形成は言語学の角度から深入りしていない．そこで忌み言葉にある標準を設け，語彙構成や表現の形成はレトリックの角度から再検討する必要があると思われる．本稿では中国語における忌み言葉を日常生活と業種別，二つのカテゴリーに分け，それに日常生活における忌み言葉を人が生まれてから死ぬまでの過程に関わる物事を標準として分類し，中国語の忌み言葉と代替語を論じようと思う．

2．中国語における言語禁忌

2．1　日常生活における忌み言葉

2．1．1　名前，年齢，干支

2．1．1．1　名前に関する忌み言葉

人の名前はもともと本人を代表する記号にすぎない．しかし鬼神文化の影響を受け，昔の人は，名前は魂に付けられるものであり，もし自分の名前が人に知られたら自分の魂は悪意のある者にもてあそばれてしまう，と考えていた．

封建社会になると，「礼」という等級観念の影響を受け，名前は政治的な礼儀と道徳の色彩を帯びるようになった．それで皇帝，先祖，聖人，役人の名前に使われた文字は使ってはいけないという規則，つまり国讳（公讳），家讳（私讳），圣讳，官讳といった禁忌ができたのである．

「国讳」とは皇帝の名前に使われた文字は使ってはいけないということである．「国讳」を避けるために人の名前，地名，物の名前，干支などを変えることになる．例えば，唐の二代の皇帝は李世民であるが，彼が皇帝になってから，世という字は使えなくなった．観世音菩薩も観音菩薩に略された．唐の前は観世音菩薩の言い方だったが，唐の時代になって観音菩薩の言い方に変わったのである．

「家讳」とは自分の先祖が含まれるすべての年長者の名前に使われた文字は日常表現の中で使ってはいけないということである．中国では先祖を敬う観念が根付いているので，人々は自分の家族が世々代々続くことを望み，それによって永遠に消えない願望を満たし，また自分の家系が抜群に優れていることを望み，それによって誇りを満たすのである．例えば司馬遷の父親の名前に「談」という文字があるので「史記」という書物の中で「張孟談」を「張孟同」，「趙談」を「趙同」と変えるようになった．一般的に言えば「家讳」は家族内部に限ることであるが，他人もその家族の人と付き合っているうちに，礼儀を守るためにその家の「家讳」を避けるようになる．

「圣讳」とは朝廷で規定する聖人の名前に使われた文字を使ってはいけないということである．例えば聖人である「孔丘」の「丘」を避けるために，一画を減らし書いたり「某」と書いたりする．または赤いペンで記号をつけ，「区」（今「ōu」と読むが昔は「qiū」の発音と似ている）あるいは「休」と読んだ．宋の時代から苗字が「丘」である人は部首を加えて「邱」と書かなければならない．

「官讳」とは役人の名前に使われた文字を使ってはいけないということである．一般的に言えば二つの場合がある．一つは，官僚が自分の権威をふるい，自分が管轄する範囲では自分の名前に使われた文字を使ってはいけないと命じる場合である．「只许州官放火，不许百姓点灯」という諺は「官讳」を避けるということから来るものである．宋の時代に田登という知事がいた．当地の庶民に「灯」を「火」読み（「灯」の発音は「登」と同じなので，「登」という漢字を避けるのである），「点灯」を「点火」と読まなければならないことを命じた．元宵節に「本州依例放火三日」（通例により，当地では灯籠は三日間点燈されるものだった．）という触れが出た．「放灯」は「放火」に変わり，庶民は「只许州官放火，不许百姓点灯」という句を作って田登を皮肉った．この諺は今日まで伝わっている．もう一つは，部下あるいは目下の人は権力を畏敬するため，目上の人にごまをすり，「官讳」を避ける場合である．

幼名をつける時に，名前は俗っぽければ俗っぽいほど子供は早く育つと思われている．例えば「二傻子，大憨，赖狗」などあげられる．中国人は名前をつける時は，次の二つの点に注意する．

一つ目は字の意味を重んじること．意味の悪い言葉，例えば「邪恶，贪婪，凶残，恶毒，淫邪，奸诈」などは名前に使わない．それに，やぼったい言葉，例えば「菜花，有财，富贵」なども名前には使わない．また名づけをする時に，苗字と名の組み合わせにも気をつけることが必要である．例えば，「来喜」「来发」は「金持ちになる」ということを願って，つける名前であるが苗字「杜」をつけると，何も要らないという意味になるのである．

二つ目は名づけは字の音を重んじること．名前をつける時に，下品な物事を連想させる字を避けようとするのである．例えば「珠」と「猪」，「春」と「蠢」，「石」と「屎」など．したがって，一見意味がよく，上品な名前でも，音韻的に別な言葉と聞こえる場合もある．たとえば「朱石」は「猪屎」と聞こえる可能性があるのである．[2]

2．1．1．2　年齢に関する忌み言葉

年齢は生命の長さを表しているので，年齢を表す数字は生命とも関わるのである．不吉な数字は災害や災いなどの意味につながるとされている．

36歳，45歳，73歳，84歳，100歳は忌み言葉とされる．36歳は三国時代の呉国の大将の周瑜の享年である．45歳が禁忌とされるのは遭難，妻を寝どられる男などの不吉なことと関わっているからである．伝説によると，包拯（北宋の名裁判官）は45歳のとき，陳州で穀物倉庫を開け，穀物を庶民に配る途中で盗難にあい，妻を寝とられた男に変装して災難を免れたという．73歳，84歳を禁忌とするのは孔子と孟子の享年と関わっている．伝説では孔子は73歳で，孟子は84歳で死んだとされている．それゆえ，73歳と84歳は人生の関所とされ，聖人も乗り越えられない歳だから，普通の人はなおさらであると思われている．今でも，73歳を72歳または74歳と，84歳を83歳または85歳と言い換えることもある．100歳はよく寿命の極限を示している．例えば「百年和好」（百年仲直りする）「百年之后」（百年後）などは寿命の極限を暗示する．それゆえ，年齢を聞かれると，100歳の場合は99歳と言い換えるのである．

年齢に関する禁忌は地方によって特別な言い方もある．例えば，山東では男の人は41歳が忌み言葉とされる．41歳になったら42歳と言い換える．また，台湾では9歳や19歳，29歳など9という数字が含まれる年齢が禁忌される．9という数字は縁起がいい数字だが，過ぎると縁起が悪くなるという心理が働いているからであるかもしれない．浙江省の湖州では81歳を忌み言葉とする．9×9は81になるから，財産はすでに最大になり，後代の人が貧しくなるおそれがあるからである．[3]

2．1．1．3　干支に関する忌み言葉

干支は人の年齢を示すほかに，自分の本命を示すことができる．それゆえ民間では干支を忌み言葉とすることがある．昔，芸能人は宮中に入り劇を演じる時に，皇帝，皇太后，皇妃などの干支，名前の禁忌を覚えなければならなかった．例えば清の慈禧皇太后の干支は羊であるが，劇を演じる時には羊を忌み言葉とする．さらに台詞も変え，羊を含む台本を演じることも許されない．[4]

2．1．2　性，生理現象

儒学では男女の間は道徳を守るべきだと強調され，そして仏教の禁欲思想により，中国では古代から「性」は汚い，恥ずかしいものとして扱われてきたのである．それゆえ，「性」に関連する「性的器官」「性的行為」などへの直接な言及を憚り，婉曲語を使うことになるのである．

まず生殖器官については，医学の分野では直接表現する場合を除き，一般的には婉曲語で表現される．例えば，昔は男性の生殖器官は「兴哥」と言い換えられた．現代は「老二，弟弟，JJ，卵」などの表現に置き換える．女性の生殖器官は「下部，阴部」と言い換える．また「下身，下部，家伙，那玩意」のような表現も使われる．

生殖器官に関連する「性的行為」は「办事，房事，云雨，发生关系，睡觉，同床，上床」などの表現に置き換える．「性的行為」に関連する「妓院」は「烟花柳巷，四喜堂，青楼，枇杷巷」と言い換える．

女性の生理も直接には言わないで，昔は「月水」に，現代は「例假，大姨妈，那个」などに言い換える．女子学生は「办公」と，農村の女性は「下身不干净」とも言う．

生殖器官に対する禁忌からそれと関連する汚い場所や汚物も禁忌され，上品な婉曲語が使われるようになった．例えば，「トイレ」を「东净，洗手间，卫生间」，「大小便をする」を「净手，放水火，更衣，解手，走动，方便方便，减轻负担，去一号」，夜間の大小便は「起夜，下地」と表現する．さらに大小便と関連するものや便器を「夜壶，脚盆」と表現する．[5]

2．1．3　死亡，病気

生・老・病・死は本来自然の摂理である．しかし，人間はこの世の幸せをほしがり，彼の世の死を怖がるため，「死」という字に対して恐怖感がうまれ，言語禁忌の対象となったのである．

中国人の死に対する禁忌は世界各地での死の言語禁忌と共通するところがあるが，文化的背景が異なるので，中国人の死に対する忌避は中国文化の特徴を帯びている．

中国人の死の禁忌に関わる要素を以下のようにまとめておく．

(1) 封建社会の「礼」という階級制度と関わる婉曲語

古代では帝王から庶民まで「死」を忌みはばかった．しかし「礼」という等級観念が存在するため帝王の死から庶民の死まで呼び方が異なるため，「死」に関する代替語も豊富多彩になったのである．

例えば，「礼記・曲礼」ではヒエラルキーの元で使う代替語について次のように述べられている．天子の死は「崩」，「崩殂」，「山陵崩」，「驾崩」という．「崩」とは崩れということで，山崩れを天子の死に用いることにより，天子は国の中心人物であり，天子の死は山が崩れるように重大であると喩えるのである．諸侯の死は「薨」，大夫の死は「卒」，士の死は「不禄」という．「禄」は給料のことで，「不禄」は給料をもらわなくなるということである．庶民の死は「死」という．支配階級の目から見ると，庶民は礼儀を守らなくてもよく，庶民以上の階級こそ礼儀を守るべきだからである．

帝王を褒め称えるために，「崩」のほかに，帝王の死は「天崩地坼」「弃天下」「弃群臣」など専用の婉曲的な表現も用いられる．これらの表現は帝王の死が世の中に重大な影響を与えるものだということを示しているのである．

また，目上の人の前で自分の死を言及する時に自分を見下す言葉がよく使われる．例えば，「戦国策」で述べられたように，大臣である触竜が皇帝の母の前で自分の死を「填沟壑」（すなわち死んだ後，死体を谷川に投げて済む）と言い換えるのである．謙遜を表すためにわざわざ自分を見下す言葉を使うということは，当時の社会は階級制度が厳しかったということを物語っているのである．

(2) 仏教や道教などの宗教思想と関わる婉曲語

まず，普通の人々が死んだ時「上天堂」（天堂というのは天国のことである）「归天」「下地狱」「见阎王」（阎王というのは地獄の神様のことである）といった「天堂」，「地狱」に関する言葉を使うのが一般的である．これは仏教思想の影響を受けたものだと考えられる．仏教が前漢の末，インドから中国に伝

わって以来，多くの中国人が仏教の信者となった．仏教の教えによると，人は死後，善行を行なった者は善の中有に行き，悪を行なった者は悪の中有へと向かうという．つまり，前者は楽園の世界へ，後者は地獄に落ち，懲罰を受けるのである．このように，仏教の輪廻説の影響を受け，死の代わりに「天堂」「地狱」に関する言葉を使うのである．また，「上天堂」「归天」は死者を追憶する気持ち，「下地狱」「见阎王」は死者を呪う気持ちが込められているのである．

また，「成仙」「仙去」「仙游」「上仙」「升暇」「羽化」「物化」なども「死」の代替語として使われる．これは道教の影響を受けたからであろう．道教の教えによると人間は修行を積んだら長生きし仙人になるという．道教では「骑鹤化」という説もあり，入定し仙人になったということを騎鶴化という．仏教には「极乐浄土」という説もあるので，道教の影響で「骑鹤归西」という言葉も死の婉曲的な表現とされる．

(3) さまざまな死生観と関わる婉曲語

古代では，生と死は運命付けられているという死生観の影響で，昔の人は「不測」「不虞」を死の代替語として使っていた．「仕方がない」「どうしようがない」という気持ちが込められているものであった．

そのほかに「生寄死归」という死生観もある．この観念によると，「生きる」とは「客になる」こと，「死ぬ」ことこそ落ちつきさきということになる．昔の人は「死」を「不帰」あるいは「捐馆舎」（すなわち客が住むところを捨てる）と言い換えた．

現代では科学が迷信にとって替わって，生死は自然の法則であると認識される．そしてこういう死生観と対応する代替語が生まれてきた．例えば「是到时候的人了」という表現があげられる．人の死に用いる時に，賛美あるいは追憶の気持ちを一切込めず，自然の法則を直視すべきだという意味が含まれる．自分の死に用いる時に，周りの人が悲しくならないようにと慰める表現となる．

また，儒教思想の代表者である孔子は「仁愛のある正義の人，人を害して何とか生き延びようとすることがなく，正義のために一身を犠牲にする」（志士仁人，无求生以害仁，有杀身以成仁.）と言ったことがある．この積極的な死生観を受け継いで，現代で正義のために身を捧げた人，評価の高い人の死に対して直接「死」という字を使わずに褒め言葉で代替する．これは死者の親族に直接刺激を与えないだけでなく，死者に対する哀悼を表すことができるからである．例えば:「牺牲」「献身」「殉职」「成仁」「就义」「光荣」「与世常辞」などあげられる．これに反して，悪を行った人の死に対して「死」を直接言う場合もある．このほかに，「去世」「永别」「合眼」「不在」などは普通の人の死の言い方としてもよく使われる．そして新しい言い方として「去见上帝了」「去见马克思」（マルクスは共産主義の証人であり，人が死んだ後悩みも消え共産主義社会に入るに等しい）があげられる．これは西洋の影響を受けたものと見られる．特殊な原因による死も特殊な言い方がある．例えば，「寻短見」「寻短路」「自尽」「自刎」などは自分のほうから「死」を選ぶ場合の代替語である．

(4) 葬儀と関わっている死の婉曲語．

葬儀は火葬や土葬，棺に納めて葬ることなどいろいろなやり方がある．それに対応して，葬儀と関わっている死の婉曲語もたくさん出てきた．

例えば古代で死体を丘に葬るというやり方があるので「帰丘」という婉曲語が生まれた．土葬と関連する言葉は「身归黄泉」「命染黄砂」「命归泉路」「进土了」などがあげられる．

また話し言葉で「三长两短」という婉曲語がある．それは死体を棺に納めて葬るというやり方と関わっている．「三长两短」は棺桶のことを言っている．古くは棺桶は釘を使わないで，皮ひもで棺おけの底と蓋を一緒に縛るのである．横に三回縛って，縦に二回縛るので，横の板は長く縦の板は短くて「三长两短」という言葉が生まれてきたのである．

火葬と関わる死の婉曲語は「上火葬场了」「就要到殡仪馆了」などが挙げられる．

中国人は故郷に対して特殊な感情をもっていて，死後死体が故郷で葬られることを希望しているので，死後死体を故郷に葬るという習慣がある．それに相応して「回去」「回老家」も死の婉曲語として使われている．

中国の一部の地域では，死体を納棺する時に，死体をまっすぐひっぱらなければならず，あるいは死体をまっすぐひっぱり，顔を仰向けにするというやり方があるので「拉直了」「仰天了」といった言葉も現れてきたのである．

「死」という字だけでなく，死に関するものに対しても忌みはばかる．例えば，死と密接な関係がある棺桶についても「寿板」「寿材」「寿器」などの表

現があげられる．人が死んだ後，着る服は「寿衣」と言うのである．それは「死」という縁起の悪い漢字を避けるために縁起のいい漢字「寿」を使うのである．

「死」の他に，病気も不吉なものとされ禁忌とされている．「死」と同じように，昔は「礼」という等級観念が存在したので，地位によって病気の婉曲語も違ってくる．「春秋公羊伝」には天子の病気を「不豫」（「豫」は「预」と同じ，「不豫」とはもう国の政治に与ることができないという意味）と表現し，諸侯の病気を「负兹」，（「兹」は「子」と同じ，「负兹」とは庶民と憂いを共にすることができないという意味）「伏枕」（すなわち「寝付く」）と表現し，大夫の病気を「犬马」（昔，臣下が君主に対して自らを犬馬に例え，もう朝廷に尽くすことができないという意味）と表現し，士の病気を「负薪」（柴を背負ったので，体力はまだ回復していない）と表現する．

現代では，古代のように病気の婉曲語に階級別に使い分けることなく，普通の言い方は「不舒服，没力气，身体不太好，在吃糖汤」等が挙げられる．広東の客家の人たちは「唔自然」，潮汕の人たちは「唔快活」，泉州の人たちは「无爽，艰苦」と言う．

病気の種類はそれぞれ具体的な忌み言葉がある．例えば「腹泻」は「河鱼腹疾，河鱼之疾，河鱼」になり，それは川魚が腹から腐ることから来たものである．昔，中国の古文によく使っていたが今はあまり使わなくなったのである．「伤寒」は「冻天行」，「粉刺」は「青春痘」になる．「粉刺」は青春期にできたので「青春痘」という呼び方が出てきたのである．「跛足」は「弱足，腿脚不方便」，「耳聋」は「耳背，重听，背听，耳朵不好使」，「眼瞎」は「眼睛不好使，看不到」に言い換えられる．「出血症」は「失红」，「肺结核」は「痨病」，「梅毒」は「花柳病」，「艾滋病」，「性病」，「癌症」は「瘤」に言い換えられる．そのうち，「冻天行」，「花柳病」，「痨病」は昔は使っていたが今はあまり使わなくなった．

2．1．4　祝日節句

祝日には神霊が下界に下り，人間と一緒に祝日を過ごすと思われるから，供え物をたくさん用意し，祖先を祭るだけでなく，言行も慎み神仏を怒らせることを恐れる．祝日に避けられる言葉として「病，死，鬼，杀，穷，输，亏本」があげられる．

例えば天津では，春節にストーブに煤を入れる時に，「添煤」を「添火」と言い換える．「煤」は「霉」の発音と同じなので「添煤」は「添霉」になるのである．それに対して「火」は「红火」（生活が豊かになる）という意味があるのである．

北方では大晦日あるいは正月の一日目に，お皿などを砕くと「破了，碎了」といってはいけない．そのかわり，「岁岁（碎碎）平安」「越打越发」と言い換え，広東潮汕では「缶开嘴，大富贵」と言い換える．

天津では「杀鸡，杀鸭」を「伏鸡，伏鸭」，広東澄海では「用鸡，伏鸭」と言い換える．

お正月に餃子を作る時に，「馅不够，皮漏了，皮破了」などの言葉も避ける．作り終わった後は「完了」を言ってはいけない．もし中身が残ったら「有余，留着再包吧」というべきで皮が破れたとき「挣了」と言う．食事が終わった後「吃完了，吃光了」を言わないで「吃饱了，吃好了」と言い換える．[6]

2．1．5　数字

数字はもともと数量関係を表す符号として存在するものであるが，言語の符号としての文化的価値も持っている．吉と不吉の区別があるとされている．不吉を避け，吉を求める心理から数字も禁忌の対象となった．一般的に禁忌とされる数字は奇数である．偶数は喜ばれる．

まず「三」が禁忌とされている．「三」が「散」の発音に近いからである．広東省の潮州の人は「三点」を「两点六十分」と言う．揚州では，男は三十歳（「三」は「散」の発音に近い）に「別れる」ことを恐れ，女は四十歳に「死」（「四」は「死」の発音に近い）を恐れていることから，男の人は三十歳を祝わなく女の人は四十歳を祝わないのである．

次に「四」が禁忌とされている．「四」は「死」の発音に近いからである．お客様が四名いる時，「三位加一位」と言い，病院には四階，四号病室がない．4は車のナンバーに使われず4の多い携帯電話番号は安売りすることもある．しかし宴会や結婚式の時に，縁起のいい数字になる．「四紅四喜」という言葉がある．中国の一部の地域では新郎新婦の結婚を祝う時に，結婚式でお客さんがお酒を八杯飲むという習慣がある．お酒を八杯飲むのを「四紅四喜」と言うのである．団欒の意味にもなる肉団子は四喜丸子ともいわれる．四喜とは一喜，老爷头榜题名（殿試に合格すること）；二喜，成家完婚（結婚して所帯を持つ）；三喜，做了乘龙快婿（いい婿さんになる）；四喜，合家团圆（一家団欒）を示している．

それに対して「六」「八」「九」は喜ばれる数字である．それは「六」は順調の意味で「八」は「发」(「发财」金持ちになる「发达」発達になる）の発音と似ていて，「九」は「久」(「天长地久」とこしえに変わらない）の発音と似ているからである．プレゼントする時には，特に数字を気にしなくてもいいが，結婚のお祝いなら，必ず偶数にする．「二人で仲良く，一人ぼっちにならないように」という意味である．

2．1．6　差別語

2．1．6．1　身体障害に関する忌み言葉

身体障害者に対して，相手の気持ちを思いやり身体障害に関する言葉を婉曲語に代替する．例えば身体障害者に対して「残废人」と言わず「残疾人」と言い換える．目が不自由な人は「独眼龙」「瞎子」と言わず「盲人」，耳と口が不自由な人は「聋子」と言わず「聋哑人」，足が不自由な人は「瘸子，瘫子」と言わず「跛足，截瘫」，猫背の人は「罗锅」と言わず「驼背」と言い換える．知力が不自由な人は「傻子，呆子，弱智」と言わず「智力障碍者」と言い換える．

2．1．6．2　民族や人種などに関する忌み言葉

少数民族に対して，昔から伝わってきた軽蔑の意味が含まれる呼び方を使ってはいけない．例えば「回回，蛮子」を使わないで「回族」を使うべきである．随意に略称を使ってはいけない．「蛮子」は南の未開の民族を示しているからである．

2．1．6．3　政治問題に関する忌み言葉

香港とマカオは中国の特別行政区であり，台湾は中国の省の一つである．「国家」を使ってはいけない．台湾当局の政権と機関の名称に対して，回避できない場合“ ”をつけなければならない．例えば「台湾“立法院”」．「中央，国立，中华台北」のような言葉を使ってはならない．台湾の指導者に対して「总统（副总统）」を使ってはいけない．台湾，香港，マカオを中国と同列に論じてはいけない．例えば中港""中台""中澳"．台湾は「大陆」と相応し，香港，マカオは「内地」と対応するので「内地与香港」「大陆与台湾」を使うべきである．「台湾，南沙群岛，钓鱼岛，新疆」を「福摩萨，斯普拉特利群岛，尖阁群岛，厥斯坦」と呼んではいけない．それは「福摩萨，斯普拉特利群岛，尖阁群岛，厥斯坦」の言い方はすべて昔，台湾，南沙群岛，钓鱼岛，新疆が殖民地であったときの呼び方だったからである．

民族人種，政治問題に関する忌み言葉は放送禁止用語とされている．つまり，放送や新聞では使ってはいけない言葉である．

2．1．7　人間関係

2．1．7．1　招待における忌み言葉

お客さんにお茶を入れるときに，壷の口をお客さんの方に向けてはならない．「壶嘴」は「虎嘴」と発音が似ているからである．お客さんが尋ねてきたときに，一回目の食事で「水餃」を食べることは禁忌とされる．「水餃」は「滚蛋包」とも言い換えられるので「水餃」を出すということはお客さんが歓迎されないということになるからである．食事に招待されて魚料理を出された時，客は魚を裏返してはならない．「翻」は縁起が悪いからである．食卓では「蒜」も「醋」も避けられる．「蒜」の発音は「散」と似ていて「醋」は中国語で「嫉妬」という意味があるからである．

2．1．7．2　贈答に関する忌み言葉

お見舞いに行くときに，贈るものは梨が禁忌とされている．「梨」は「离」の発音と似ているからである．そのかわりに「りんご」(苹果)「みかん」(橘子)「もも」(桃子）を贈る．これらの果物は「平安，吉利，逃离」の発音と似ているからである．またなつめと梨をいっしょに持っていくと病人が喜ぶ．なつめと梨は中国語で言い換えると「枣」「离」になるからである．一緒に贈るのは「早离病房」(「早く退院するようにお祈りします.」）という意味が含まれている．香港では贈り物をする時に，特に商人に贈り物をする時にジャスミン（中国語で言い換えると「茉莉」)，グラジオラスをもっていけない（中国語で言い換えると「剑兰」)．「茉莉」は広東語では「没利」，「剑兰」は広東語では「见难」の発音と似ているからである．

2．2　業種別における忌み言葉

2．2．1　農業

穀物を収穫した後，生産高を聞いてはいけない．総生産高はどれぐらいあるかということを聞かれるのを恐れるのである．それは生産高が高いと，穀物が全部神様に持っていかれる恐れがあるからだと思われる．「粮食快收完了吧」のような言い方は禁忌とされる．それは「完了」は「来年，収穫ができない」という意味になるからだと思われる．客家地域では，「韭菜」を「快菜」と言い換える．それは客家の方言では「韭菜」の発音は「久菜」と同じで，「久菜」と言ったら

韮がなかなか伸びないという意味になるからである．その言い方には韮が早く伸びるようにと願いを込めているのである．

狩猟をする時に，猟師は獣に知恵があると信じて，獣の名前を言い換える．例えば：「虎」を「大虫，长尾巴」，「熊」を「大爷，大爷子」と言い換える．人に狩猟の場所を教えるのも禁忌とする．それは獣が知ったら隠れて獲物が手に入らない恐れがあるからだと思われる．

漁業において，「倒，翻（帆），搁，沉，住，完，破，火，离，散，没有」は忌み言葉とされている．これらの言葉は漁業に従事する人にとってすべて縁起の悪いことだからである．漁師は「倒掉」を「卖掉，卖脱」，「倒水」を「清水」，「倒桅」を「眠桅」と言い換える．それは「倒」が「倒れる」の意味だからである．「翻个面」を「转个堂」，「帆」を「篷」，「将帆放倒」を「小篷」と言い換える．それは「帆」の発音が「翻」（「翻」が転覆の意味である）と同じからである．「搁」を「放」と言い換える．それは「搁」が「船が進まず擱坐する」という意味だからである．「盛饭」を「装饭，添饭，添粮」（「沉」の発音は「盛」と似ているからである），「用筷子吃饭」を「撑」と言い換える．それは中国語で「筷子」も「箸」と呼び，「箸」の発音が「住」と同じで「住」は「止まる」という意味があるからである．

養蚕業においても忌み言葉がある．養蚕業に従事する人が「蚕」を「宝宝，蚕姑娘」と言い換えるのは，蚕を可愛がるという気持ちが込められているからである．「跑了，死了，没了」は縁起の悪い言葉として避けられる．またこれらの言葉を連想される言葉も避ける．例えば「伸」（まっすぐになる）が避けられる．蚕が死んだ時に，まっすぐになるからである．また「亮蚕」と「僵蚕」は蚕の病気だから「天亮了」を「天开眼了」，「姜」（「僵」の発音と同じ），「酱油」（「酱」の発音は「僵」と似ている）を「颜色，罐头」と言い換える．「葱」の発音は「冲」（蚕を怒らせる）と似ているから「香火」と言い換える．[7]

2．2．2　工業

鉱山労働者は立て坑で働くときに，「死，憋死，砸死」などの言葉を避ける．それは採鉱という仕事は危険性が高いから不吉を避け，縁起がいいことを求めるのである．

伐採労働者は山で木を切るときに，斧の取っ手が外れるときに，「掉头」と言わずに「出山」と言い換える．それは「掉头」が「頭が落ちる」つまり「死ぬ」という意味が連想されるからである．

建築業では，縁起がいいということを求めるために，木材についても考えなければならない．例えば，河南省では棟の木を棟木としてはいけない．「棟」は「殓」（納棺する）と同じ発音だからである．桑の木も使ってはならない．「桑」は「丧」と同じ発音だからである．楡の木を使う．それは「楡梁」が「余粮」（余計な穀物）と同じ発音だからである．

2．2．3　商業

古代では農業が重視され，商業は抑制されてきた．それに商業自体不安定なので，それで商人のなかに迷信心理が生まれ，忌み言葉も生まれてきたのである．

まず商業に従事する人は「关门」を忌み言葉とする．それは「关门」には「倒れる，潰れる」という意味が含まれているからである．「关门」は「打烊」に言い換えられる．また「折」（shé）も忌み言葉とされる．商売をするのは損をすることを一番怖がり「舌」（shé）は「折」（shé）と語呂合わせなので「舌」（shé）も忌み言葉とされる．広州では「猪利」，温州では「舌头」を「口赚」，南昌では「招财」，蘇州では「门枪」，江蘇省の無錫と湖北省では「猪赚头」と言い換える．

さらに「输」「苦」も忌み言葉とされる．広東語では「丝」の発音は「输」と同じなので「丝瓜」を「胜瓜」，「书」は「输」との語呂合わせなので「书」も忌み言葉となる．「通书」（去年の暦）は「通胜」になり，また「苦瓜」は「凉瓜」と言い換えられる．

広東語では「空」の発音は「凶」と同じであるので「空屋」を「吉屋」と言い換える．例えば「吉屋转让」という表現がある．「食饭」の「食」は「蚀」と同じ発音なので「食饭」を「喫饭」と言い換える．

以上で述べた生計の道を妨げる言葉ばかりでなく，縁起の悪い言葉も禁忌の範囲に入るのである．例えば，薬屋，棺おけ屋の人はお客さんに「再来坐，欢迎再来」などの言葉を使ってはいけない．それは「また病気になる，また死んだ人がいる」と呪う感じを与えるからである．

2．2．4　その他

昔，劇団には特殊な忌み言葉がある．「五大仙」というものである．「老鼠，刺猬，蛇，黄鼠狼，狐狸」をそれぞれ「灰八爷，白五爷，柳七爷，黄大爷，大仙爷」と言い換える．それは「老鼠，刺猬，蛇，黄鼠狼，狐狸」は劇団の神様と思われるので本名を言わないで尊敬する言い方を取るからである．

このような特殊な忌み言葉は中国各業種の神様崇拝に関わっている．すなわち特殊な忌み言葉は各業種に従事する人が当該業種の神様を尊敬するために生まれてきたのである．上記で挙げる「老鼠，刺猬，蛇，黄鼠狼，狐狸」は劇団の神様と崇拝されているので神様の名前を直接言うのを憚り，「灰八爷，白五爷，柳七爷，黄大爷，大仙爷」と言い換え，「五大仙」と言うのである．[8]

2．3　婚姻，出産において避けられる言葉

婚姻，出産は人生のキーポイントである．中国語には「无后为大」（すなわち，跡継ぎが無いということは深刻な問題である）という諺がある．中国人の伝統的な観念によると出産に問題があったら血統が絶えることになるからである．中国人は昔から家庭を重視し，夫婦の離婚，家庭の破綻もその人に大きな影響を与えることだと思われている．

出産に関する忌み言葉は子孫の断絶，出産の不順，子供の不健康に関する言葉である．それに対して，婚姻に関する忌み言葉は夫婦不和，家庭破綻のようなものである．

例えば，広東潮汕の田舎では１月15日（元宵節）になると，祠にはちょうちんを吊るし，色絹を飾り付ける．そのうち，もしちょうちんを吊るさない村が一つ，二つあるとしたら，その時ちょうちんを観賞する人は絶対「某村今年没有灯」（ある村は今年灯はない）と言ってはいけない．当地の方言では，「灯」は「丁」の発音と同じで，「某村今年没有灯」は「ある村は今年，子孫は絶える」という意味になるからである．

杭州では赤ちゃんが生まれて百日目になると，「百日」を「百禄」と言い換える．「百日」とは人が死んでからの百日を指すからである．また「百禄」も書き言葉に限る．当地の方言では，「百禄」は「不禄」の発音と同じで「不録」は「死」の意味になるので「禄」を「羅」と言い換える．

台湾では，婚約に来た男の人が帰るときに，女の人が男の人に「再来坐」と言うのを禁忌とする．「再」は女の方が再婚するということを連想させるからである．その場合，女の人は頷いて見送る．婚約が決まった後も，「重，再」を禁忌とする．「重，再」は再婚するということを連想させるからである．

また結婚式には扇子，傘，時計を贈ってはいけない．「扇，傘」は台湾の言葉で「散」の発音と似ているからであり，「钟」は「终」の発音と似ていて，「送钟」は「送终」になるからである．また結婚披露宴に出席する時に，「完了」と言ってはいけない．「完了」は「死，亡」という言葉を連想させるからである．それに反して，広東潮汕の方言では「钟」，「扇，傘」は「终」，「散」の発音と違うので結婚のプレゼントとして時計，扇子を贈る人は多くいるようである．[9]

3．忌み言葉の代替語の形成

中国語における忌み言葉の代替語は主に次のようなレトリックが使われている．

3．1　字喩

字装法とも言う．使う文字をふつうの書き方と違ったものにするというレトリックである．字謎のことで，音によるものもあるが，漢字の分解によるもののほうが多い．また用いる文字を「あて字」などにして文字を操作することによって，表記を変える．[10] たとえば，ふつうならば漢字で書くところをわざと「ひらがな」とか「カタカナ」で書くものが，この「字装法」にあたる．表記を変えることによって，その使っている言葉づかいに違いが生まれる．そのため，指し示す対象のニュアンスを変えさせる効果を出すことができる．中国語では「析字辞格」と言う．英語では “anagram” と言う．中国語の字装法は漢字の形や読み方などを換えることにより，口に出すのを憚る漢字を別の言い方で表現する．中国の古代で名前に関する忌み言葉の代替語はほとんど「析字辞格」を使っている．ここに漢字を変える場合は次の六つの項目に分けている．

(1) 形が似ている漢字に変える

漢字の形を変えることにより，禁忌される言葉を避けることができるようになった．例えば「苟」を「旬」に変えるなどが挙げられる．

(2) 意味が似ている漢字に変える

例えば唐の時代の二代皇帝である李世民という名前には「世」が入っているので，唐の時代の人は唐の時代以前の本に書いてある「世」を「代」と変える．また漁業において漁師は「盛饭」を「装饭，添饭」と言い変えることなどが挙げられる．

(3) 読み替え

読み方が似ている漢字に変えることにより，禁忌される言葉が避けられる．例えば司馬遷は「史記」という本の中で「張孟談」を「張孟同」，「趙談」を「趙同」と変えるのがこれにあたる．

(4) 省略

二字以上の言葉にある漢字を省略することにより，禁忌される言葉が避けられる．例えば，李世民の「世」を忌避するために「観世音菩薩」を「観音菩薩」に略されたのである．

(5) 意味がはっきりしない漢字に変える

禁忌される漢字を曖昧な言葉で換える．例えば聖人である「孔丘」の「丘」を避けるために「某」を使うことなどが挙げられる．

(6) 文字による造語

筆画を変えることにより造語が作り出されるのである．例えば「李世民」の「世」を避けるために一画減らすこと（欠画）などが挙げられる．

3．2　対義結合法

対義結合法は撞着語法とも，逆説法とも言う．対義結合とは常識的に結合不可能と見なされている語同士を結びつける文彩のことであり，矛盾関係あるいは反対関係にある語を結びつけることが多い．中国語では「反义互饰」「反饰辞格」と言い，英語では“paradox”“oxymoron”と言う．[11]

中国語の忌み言葉の代替語の形成にはよく忌み言葉と反対する意味を持っている語句を使う．つまり縁起のいいことを求めるために縁起の悪い言葉を縁起のいい言葉に言い換える．例えば広東語で「空屋」を「吉屋」,「通书」(去年の暦）を「通胜」,「猪舌」を「猪利」と言い換える．広東語で「空」の発音は「凶」と同じで,「书」は「输」,「舌」は「折」と語呂合わせなのである．漁師は「箸」を「筷」と言い換える．「筷」は「快」,「箸」は「住」（止まる）と語呂合わせなのである．

3．3　換喩法

メトニミーとも言う．換喩は，（現実）世界の中で隣接関係にあるモノとモノの間で，一方から他方へ指示がずれる現象のことを言う．二つのものの隣接性に基づく比喩である．中国語では「旁借辞格」「换喻辞格」「借代」と言い，英語では“metonymy”と言う．隠喩と換喩の区別は次の例で説明できる．肌の白さに着目して，王女に「白雪」という名前をつければ，それは隠喩型の命名だが，つまり「白雪」は「肌の白さ」と共通する「白い」という特徴を見出して名づけたものである．いつも赤いシャペロンをかぶっている女の子を「赤頭巾」という綽名で呼ぶのは換喩型の名づけである．つまり女の子がよく赤いシャペロンをかぶっているという特徴に着目して，名づけたのである．

中国語の換喩は次のような二通りに分けられる．

(1)「旁借」：すなわち主体と付属物との関係である．特徴と物事の置き換え，所在や所属と物事の置き換え，作品と作者の置き換え，産物と産地の置き換え，原料と製品の置き換えなどがある．

(2)「代置」：中国語では「对代」と言う．部分と全体の置き換え，特定と一般の置き換え，具体と抽象の置き換え，原因と結果の置き換えである．[12]

中国語の忌み言葉の形成には代置を使っている．例えば「死」は「上火葬场了」「就要到殡仪馆了」に言い換えられるのは結果で原因を代表する例である．「死」を「弃堂帐，撤席」と言いかえるのは部分で全体を代表する例である．また「死」を「三长两短」と言い換えるのは棺おけに横に三回，縦に二回縛って，横の板が長く縦の板が短いことから「三长两短」が作り出されたのである．ここに「死」と密接に関連している棺おけで「死」を婉曲的に表す．具体的なもの「棺おけ」を抽象的なもの「死」を代替する．

3．4　婉曲語法

婉曲語法とは露骨な直接表現を避け，あたりさわりのない表現に代える表現法である．中国語では「委婉辞格」と言う．中国語の忌み言葉の代替語の形成には主に曖昧語法と稀薄法を使っているのである．生理やセックスに関する忌み言葉はほとんどこの表現法を使っているのである．

(1) 曖昧語法

迂言的あるいは概念的な表現による指示対象の稀薄化をはかり，ぼかしの効果をもたらす語法．中国語では例えば生殖器官を「那玩意儿」，女性の生理を「那个」などと言い換えるのがこれにあたる．

(2) 稀薄法

伝達すべき事柄自体が人の感情を刺激し，多くはマイナスのイメージを喚起するときに稀薄法を使う．その不快感，あるいは不吉な感じを薄れさせ，表現の印象を和らげるように工夫される．例えば「死」は「老了」,古代では「病」は「偶沾微恙」今は「不舒服，没力气，身体不太好，在吃糖汤」に言い換えられる．「瘸，拐」は「腿不得劲」になる．

3．5　その他

中国語の忌み言葉の代替語の形成は上記の四つの文彩を使うほかに，また別の文彩を使うこともある．

(1) 避讳辞格

つまり語句を直接言うとタブーを犯すこととなり，別の言い方を使うことによりタブーを犯す語句を回避したり，表現を美しくする文彩である．日本語の「迂言法」に当たる．例えば触竜は皇帝の母の前で自分の死を「填沟壑」と言うことなどが挙げられる．それは目上の人の前で「死」を直接言うのが憚かられ，自分が身分が卑しいことを示すために用いられる言い方である．

(2) 引用法

引用法とは，他人の作品から文章あるいは言葉を借りて自分の演説あるいは文章に利用する方法のことである．ただし，借りられたものが特定の作者のものではなく，格言や諺などの匿名の場合もある．中国語では「引用辞格」，英語では“citation”と言う．引用法は直接引用と間接引用に分かれる．

中国語の忌み言葉の代替語の形成はだいたい直接引用を使っている．例えば「妓院」を「枇杷巷」と言い換えるのは，唐の時代の胡曾という人が有名な芸者である薛涛のために書いた詩歌，「万里桥边女，枇杷花下闭门居」から引用されたものである．

(3) 蔵詞

忌避する字を避け，前後の字を言うだけの手法を示す．例えば:「死」は「十生九」に言い換えられる．それは「十生九死」の「死」を避けるからである．

(4) 擬人法

抽象物，無生物，動植物，つまり人間でないものを人間に見立てることである．中国語では「拟人」と言うが，英語では“personification”と言う．人間でないものを人間に見立てる文彩のことだから，この文彩は隠喩を基礎とし，誇張法とも関係している．例えば劇団には「老鼠，刺猬，蛇，黄鼠狼，狐狸」をそれぞれ「灰八爷，白五爷，柳七爷，黄大爷，大仙爷」と言い換えるなどの例が挙げられる．

(5)　隠喩法

暗喩とも言う．ある物事の名称を，それと似ている別のもので表すために使う表現法が隠喩である．つまり，蛇でも猫でもないものを蛇とか猫などと呼ぶ表現法である．隠喩は，類似性に基づく「見立て」だと言える，中国語では「隐喻」か「暗喻」と言い，英語では“metaphor”と言う．

直喩が「YのようなX」とか「X はYに似ている」というのに対して，隠喩は本名Xを省いてしまい，ただ「Y」とか「Yだ」と言ってしまう．直喩が相手に対して説明的に新しい認識の共有化を求めるとは逆に，隠喩は相手に対してあらかじめ共通化した直観を期待する．隠喩は，直喩のように類似性を創造することはできない．隠れている類似性，埋もれている類似性を発掘することはでき，その発掘の働きこそ，隠喩の生命力に他ならない．

だから隠喩のパターンは「…のようだ」「…のごとし」などの形を用いず，そのものの特徴を直接他のもので表現するということである．例えば皇帝の死を「崩」，「崩殂」，「山陵崩」，「驾崩」と言い換える．「崩」とは崩れということで，ここに山崩れを皇帝の死に用いることにより，皇帝の死は重大であることを喩える．

4．終わり

本論は，日常生活と業種という二つのカテゴリーから中国語の忌み言葉について考察し，それから，言語学，特にレトリックの角度から忌み言葉の代替語を分析したものである．しかし，認知言語学，語用論からの分析についてはあまり触れていない．これらのことを今後の課題にしたいと思っている．

〔注〕

(1) 李中生（1991：p95），日本語訳は筆者による．
(2) 任驰（199：p403），日本語訳は筆者による．
(3) 同上
(4) 任驰（1991：p404），日本語訳は筆者による．
(5) 李中生（1991：p86），日本語訳は筆者による．
(6) 林伦伦（1994：p103～104），日本語訳は筆者による．
(7) 丁启红（2007:p90～91）日本語訳は筆者による．
(8) 林伦伦（1994：p108～109），日本語訳は筆者による．
(9) 林伦伦（1994：p113～114），日本語訳は筆者による．
(10) 揭侠（2005：p296）による

(11) 揭侠（2005：p298）による
(12) 揭侠（2005：p291）による

〔参考文献〕

1．陈原（1983）『社会语言学』学林出版社
2．丁启红（2007）「委婉语与禁忌语对比研究」
3．郭常义（2002）『日本语言与传统文化』广西师范大学出版社
4．靳卫卫（2004）『走进日本（透视日本语言与文化）』北京语言文化大学出版社
5．揭侠（2005）『日语修辞研究』上海外语教育出版社
6．李绪鉴（1994）『禁忌与惰性』国际文化出版公司
7．李中生（1991）『中国语言避讳习俗』山西人民出版社
8．林伦伦（1994）『中国言语禁忌和避讳』中华书局
9．鲁宝元（2005）『日汉语言对比与对日汉语教学』华语教学出版社
10. 任驰（1991）『中国民间禁忌』作家出版社
11. 中村明（1991）『日本語レトリックの体系』岩波書店
12. 鈴木一彦・林巨樹（1985）『研究資料日本文法第10巻　修辞法編』明治書院
ジョン・ライアンズ著　近藤達夫訳（1987）『言語と言語学』岩波書店
13. 国広哲弥（1985）「言語と文化のタイポロジー」—「場面依存型」と「言語依存型」『言語』第十四巻第六号，大修館書店
14. 松木啓子（1993）「言語と文化のダイナミズム—言語人類学の視点から—」『言語』第二十二巻第七号，大修館書店